

令和 2 年度 大阪市立水都国際中学校 運営に関する計画
年度評価（総括）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、高等学校においては、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの認定校となっている。さらに、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科において英語を用いた授業を実施している。

しかしながら、入学してきた生徒の英語力の差は大きく、教員間で英語に課題がある生徒のサポート体制の構築を進めてはいるが、こうした課題をどのように解決していくのが喫緊の問題である。また、多様なバックグラウンドを持つ教職員と本校の教育理念を共有し、生徒たちと共に学校の文化を創っていく取り組みを進めている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- ・ 令和3年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を令和2年度からの2年間で全体の90%を目指す。
- ・ 令和3年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、令和2年度からの2年間で全体の90%を目指す。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・ 令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検準2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を80%以上にする。
- ・ 令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。
- ・ 令和3年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ② 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・ 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の70%を目指す。
- ・ 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の70%を目指す。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ③ 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- ④ 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

学校の年度目標

- ・ 令和2年度の大阪市英語力調査における、中学校1年修了段階での英検3級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。英検準2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を20%以上にする。
- ・ 令和2年度の大阪市英語力調査における、中学校2年生修了段階での英検準2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。英検2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を20%以上にする。
- ・ 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

昨年度末から今年度の4、5月まで休校措置が取られていたが、本校においては、生徒の学びを止めないために、今年度4月よりオンライン授業の実施に踏み切った。オンラインやハイブリッドでの授業を行ったことにより、すべての学年において、年間指導計画通りに授業を進めることができた。また、オンラインの学習環境においても、主体的・対話的で深い学びの充実を図ってきた。

年に一度実施している英語四技能を測るテストにおいては、大幅な英語力の向上が見られた。また3学期より、英語学習に苦手意識を持った生徒を対象に、少人数の英語放課後学習を開始し、生徒の英語力の底上げを図っている。

また、総合的な学習の時間を活用し、生徒一人ひとりが問いを設定し、その問いについて探究を進める「ST (Suito Tankyu)」の時間を設けた。教科横断を通して、本校がめざす課題探究型の授業を、より深め、国際バカロレアの学びとの連関を図った。

大阪市立水都国際中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</p> <p>② 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70%を目指す。 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 70%を目指す。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 防災・減災教育の推進</p> <p>南海トラフ地震を想定した地震及び津波に関する知識を深め、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を養う。区と連携した防災カリキュラム作成・活用の推進を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災・震災を想定した防火訓練、防災訓練をそれぞれ年に1回実施する。 	A
<p>取組内容②【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 安全教育の推進</p> <p>安全（防犯）に対する心構えなどの指導を計画的に、継続的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に理解できるようにする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット、SNS等に関するオリエンテーション、継続的指導を実施する。 ・ 不審者対応に関する講演会、または研修等を年に1回以上実施する。 	B
<p>取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 道徳教育の推進</p> <p>徳目を押し付けるような価値の注入教育ではなく、生徒がみずからの価値への「気づき」を目指す。その気づきによって生徒は、実践的な行動において価値の選択があり、選択した価値の違いによって行動の結果が、具体的にどのような違いを示すのかを認識できるようにすることを目指す。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育推進委員会を中心に「特別の教科 道徳」のカリキュラムを作成し、実践する。 ・ 評価に関わる研修を年に1度以上実施する。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会の実現】</p> <p>① いじめに対する意識アンケートを実施した。結果を踏まえて、生徒指導主事・学年団と連携し、個々の生徒への対応及び家庭との連携による指導を行った。その結果、学校で認知したいじめについて、解消した割合は100%となっている。</p> <p>② 生徒が中心となり「いじめについて考える日」において、全生徒への授業を年に3度実施しただけでなく、ピンクシャツデー（いじめをなくす啓発運動）を実施し、教職員・生徒一人ひとりのいじめ及び人権に対する意識向上を図ってきた。</p>	

【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ・ 防災訓練を9月、防火訓練を2月、消火訓練を3月（予定）に実施した。区や消防署と連携し、防災カリキュラム作成・活用を進めていっている。

【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ・ 特別活動の時間を通して、教育委員会や文科省から例示されている資料を活用し、インターネット、SNS等に関するオリエンテーションを、生徒へ継続的に行っている。
- ・ 「生徒が安全で安心できる学校、教育環境の実現」に関して、Child protection policy を策定し、その内容について、教員を対象に研修を行った。

【施策2：道徳心・社会性の育成】

- ・ 年度当初に、「特別の教科 道徳」のカリキュラムを作成し、実践してきた。中学1、2年の教員全員で単元を振り分け、輪番で授業を担当し、そこにはネイティブ教員も加わり、授業を進めてきた。また、負担感なく、よりきめ細やかな評価ができるよう、道徳の評価に関する研修を定期的の実施した。

次年度への改善点

- ・ 放課後英語少人数学習を年度当初から実施する。英語学習につまずいている生徒を早期に発見し、その生徒に応じた対応を進めていく。
- ・ EdTech を活用することにより、個別最適化された学びを進め、学習内容の定着はもちろんのこと、課題探究型の授業をより効果的に実施できるように、カリキュラムの見直しを行う。
- ・ 管理運営法人である大阪YMCAのリソースを十分に生かしながら、生徒・教職員の意識向上に努め、いじめの未然防止から早期発見、対処に組織で取組む体制を構築していく。
(2)
- ・ Child protection policy の定期的に見直し、計画的な職員オリエンテーションを行い、「安全で安心できる学校、教育環境の実現」の理解を深めていく。(1)
- ・ 学内外のリソースを最大限活用し、国際理解教育をより進めていく。

大阪市立水都国際中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 2 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 3 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 4 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度の大阪市英語力調査における、中学校 1 年修了段階での英検 3 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 5 0 % 以上にする。英検準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 2 0 % 以上にする。 ・ 令和 2 年度の大阪市英語力調査における、中学校 2 年生修了段階での英検準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 5 0 % 以上にする。英検 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 2 0 % 以上にする。 ・ 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 7 0 % 以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進</p> <p>本校の教育理念である3E（Encourage, Engage, Empower）をもとに、社会に貢献する協創力をみがく。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中高合同の教員研修を学期に1回以上実施する。 	
<p>取組内容②【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○ 英語教育の強化</p> <p>英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において英語を用いた授業を実施する。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通して、英語を活用したプレゼンテーションを英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において実施する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 昨年度末から今年度の4、5月まで休校措置が取られていたが、本校においては、生徒の学びを止めないために、今年度4月よりオンライン授業の実施に踏み切った。オンラインやハイブリッドでの授業を行ったことにより、すべての学年において、年間指導計画通りに授業を進めることができた。また、オンラインの学習環境においても、主体的・対話的で深い学びの充実を図ってきた。</p> <p>② 大阪府教育委員会による授業視察を受け、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、本校の教育活動は高い評価を受けた。英語・理科・国語を担当する教員は、2月に大阪府の教員へ向けて研修を行った。</p> <p>③ 教育委員会の実施する新学習指導要領に関する研修へ、全教科それぞれの担当者が参加し、校内で共有した。</p> <p>④ 校内において、教務部が中心となり、新学習指導要領に関するワークショップ型の研修を、全職員へ日本語・英語それぞれで行い、「主体的・対話的で深い学びの推進」、また新しい学びにおける評価方法についての理解を深めた。</p> <p>⑤ 英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）・コミュニティ&アクション等の各教科において、英語での授業を実施している。生徒は英語でのプレゼンテーションにもチャレンジしている。</p>	

次年度への改善点

- ・ 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上を目指し、継続的なアンケートを実施し、分析を行い教育活動の向上を図る。
- ・ EdTech を活用することにより、個別最適化された学びを進め、よりいっそうの学習内容の定着を図る。(①、②)
- ・ 次年度から全面実施される新学習指導要領の理解を深める。また3観点の評価方法について、十分な研修を行い、適正な評価がなされるようシラバスを作成し、公開する。(③)
- ・ 生徒の社会参画意識の向上をめざし、学外リソースとの協働及び学外での日本語・英語によるプレゼンテーションの機会を増やす。(⑤)

令和 2 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立水都国際中学校・高等学校 学校協議会

1 総括についての評価

- ・ 前例のないパンデミックの中、本校の迅速な対応は、生徒、保護者の不安に充分に応えるもので、日本籍、外国籍問わず、新任教員、着任の遅れる教員を迎えつつ、教職員の優れたチームワークに支えられていると考えます。
- ・ 公設民営の手法による IB 認定校として、英語での授業・アクティブラーニングの積極的取入れ等、本校の教育理念は高く評価します。生徒の英語力の差を課題としているが、2021 年度に 3 年生になる生徒の学習の積上げの好事例を共有するなどして、英語力の差の解消に期待します。
- ・ IBDP 認定校として着実に特色ある教育を展開していることに心から敬意を表します。特に新型コロナウイルス感染拡大の中でも、いち早くオンライン授業を導入され、「学びを止めない」姿勢は、教職員の努力と積極性の賜物と思います。加えて、常に生徒達からの発信や創造性をポジティブにとらえているのは主体性の尊重とあいまって将来が楽しみであります。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

<p>年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナが沈静化しない中、ハイブリッド授業等を早くから取入れ、比較的通学距離の長い生徒が多い中、十分対応されたと考えます。 ・ 「いじめについて考える日」の取り組みについて高く評価します。
<p>年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育祭の中止等、行事も多大な影響を受けましたが。文化祭やアカデミックフェア、ST、ジュニアエキスポ等、創意工夫で前年とは違うスタイルを創出し、課題解決型授業を全校で実践されたと考えます。 ・ 全てを数値化した評価ではありませんが、わずか設立 2 年目にして素晴らしい成果が見られると考えます。 ・ 英検又は CEFR 等の目標は校内で共有すると達成率が上がると考えます。 ・ 中 1 のみなさんと文化祭で交流した際に、「コロナ禍の学校休業等の環境で、パソコンに慣れることができた」という前向きな声が聴くことができました。 ・ アクティブラーニングへの教職員を含めた積極的な取り組みを高く評価します。 ・ 概ね、年度目標の達成もされており、実りの一年間であったと存じます。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・ ZOOM（クロームブック）の活用による、学校と保護者の交流を可能なレベルから少しずつ取り組めると良いのではと考えます。前年度は習熟していない保護者も多かったですが、この1年でかなり普及したので、入学前の受験生向け相談会では活用されていると思うので、入学後も情報が得られると期待されることを予想します。
- ・ 新入生のITスキルの差について、少し懸念します。
- ・ コロナウィルス感染が落ち着いたときに、今までのコロナ禍での多くの試みをどう定着させていくのか、一つの課題であると思われます。